2011/04/11　更新

宮沢賢治自筆本

銀河鉄道の夜

一、午后の授業

「ではみなさんは、さういふふうに川だと云はれたり、乳の流れたあとだと云はれたりしてゐて、このぼんやりと白いものが〔天の川が↑銀河が〕何かご承知ですか。」先生は、黒板に吊した大きな黒い星座の図〔を指して〕の、上から下へ白くけぶった銀河帶のやうなところを指しながら、みんなに問をかけました。

カムパネルラが手をあげました。それから四五人手をあげました。ジョバンニも手をあげやうとして、急いでそのまゝやめました。たしかにあれがみんな星だと、いつか雜誌で讀んだのでしたが、このごろはジョバンニはまるで毎日教室でもねむく、〔雜〕本を讀むひまも讀む本もないので、〔どんなことでもはっきり〕なんだかどんなことも〔はっきりしない〕よくわからないといふ氣持ちがするのでした。

ところが先生は早くもそれを見附けたのでした。

「ジョバンニさん。あなたは〔知って〕わかってゐるのでせう。」

ジョバンニは勢よく立ちあがりましたが、立って見るともうはっきりとそれを答へることができ〔なかっでした〕ないのでした。〔前に座ったが、のに〕ザネリが前の席からふりかへって、ジョバンニを見てくすっとわら〔って〕ひました。ジョバンニはもうどぎまぎしてまっ赤になってしまひました。先生〔は〕がまた云ひました。

「大きな望遠鏡で銀河を〔よく見るともっと近くへ行ってよく調べて〕よっく調べると銀河は大体何でせう。」

やっぱり星だとジョバンニは思ひましたが、こんどもすぐに〔中に〕答へることができませんでした。

［1枚目］